

3月28日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
9:00	A201 ○Tufail Muhammad ¹ ・Naeemullah Muhammad ² ・Takeda Makio ² ・Nakamura Chiharu ² ・Ghulam Rasool Khawaja ¹ ・S Aldawood Abdulrahman ¹ (King Saud University ¹ ・Kobe University ²) Stal (Hemiptera: Delphacidae): its origin inferred from the mitochondrial COI sequence analysis	B201 室井敦 ^{1,2} ・松井健二 ³ ・下田武志 ⁴ ・木原弘友 ³ ・小澤理香 ¹ ・石原亨 ⁵ ・西原昌宏 ⁶ ・○有村源一郎 ¹ (京都大・生態研 ¹ ・愛媛大・無細胞生工研 ² ・山口大・農 ³ ・中央農研 ⁴ ・鳥取大・農 ⁵ ・岩手生工研 ⁶) アグマチン・クマロイルトランスフェラーゼを過剰発現する遺伝子組換えトレンシアの病原体および植食性害虫に対する獲得免疫	C201 ○村田未果 ^{1,2} ・Ah NgeHtwe ² ・高野俊一郎 ² ・望月淳 ¹ ・中村達 ² ((独)農環研 ¹ ・(独)国際農研 ²) キムネクロナガハムシの天敵寄生蜂2種に対する高温の影響	D201 ○望月雅俊・外山 晶敏・三代浩二・岸本英成(農研機構 果樹研究所) モクセイマルハダニと土着天敵類の各地のキンモクセイにおける発消長	E201 ○岡崎真一郎(大分農林水産研) ネオニコチノイド系薬剤に対して感受性低下したワタアブラムシの初確認	F201 ○守屋伸生 ¹ ・舞木紀玲 ¹ ・永山敦士 ² ・水谷信夫 ³ (沖縄防除セ ¹ ・沖縄農研 ² 九州沖縄農研 ³) 合成性フェロモントラップを用いたイネヨトウの発生予察の可能性
9:15	A202 ○有本誠・岩泉連(横浜植防) 日本産ドクガ科 <i>Lymantria</i> 属のITS2領域を用いたPCR-RFLP法による識別	B202 ○小澤理香 ¹ ・西村 理 ² ・矢澤 重信 ² ・室井 敦 ¹ ・高林 純示 ¹ ・有村 源一郎 ¹ (京大・生態研 ¹ ・京大・gCOEプログラム ²) 温度変化がリママメーナミハダニ・チリカブリダニの三者系に及ぼす影響	C202 ○佐藤信輔・大野和朗・西倫太郎・小森大介(宮崎大・農) ソルゴー障壁がゴミムシ類の発生および種構成に与える影響―露地ナスおよびキャベツほ場での事例	D202 ○三代浩二・土田聡・中野亮・外山晶敏・岸本英成・井原史雄(農研機構果樹研) ナシ園の植生管理による土着天敵類の定着促進 1. ヒイラギモクセイおよび数種インセクタリアープラント上での発生比較	E202 ○松浦明 ¹ ・土田聡 ² (宮崎総農試 ¹ ・農研機構・果樹研 ²) ネオニコチノイド系薬剤抵抗性ワタアブラムシの寄主植物とミトコンドリアCOI遺伝子解析	F202 ○田淵研 ¹ ・村上太郎 ² ・榊原充隆 ¹ ・安田哲也 ³ ・望月文昭 ⁴ (東北農研 ¹ ・岩手防除所 ² ・中央農研 ³ ・信越化学 ⁴) 発生源面積がカスミカメムシ2種のトラップ誘殺数に及ぼす影響: 機能的空間スケールを意識した発生予察へ向けて
9:30	A203 ○長田庸平 ¹ ・坂井誠 ² ・吉松慎一 ³ ・広渡俊哉 ¹ (大阪府大院・生環 ¹ ・共生科学 ² ・農環研 ³) 日本産 <i>Morphogoides</i> 属(鱗翅目: ヒロズコガ科)の未記載種―各種の種群分類、分布パターン、成虫の識別法およびDNAバーコーディング	B203 ○乾陽子 ¹ ・市岡孝朗 ² ・清水加耶 ² (大教大・教養 ¹ ・京大・人間環境 ²) 東南アジア熱帯のアリ植物を寄主とするシジミチョウの化学偽装	C203 ○浦野忠久 ¹ ・金崎秀司 ² (森林総研・愛媛農水研果樹研セ ²) サビマダラオオホソカタムシのカンキツ苗木および成木に穿入したゴマダラカミキリに対する放飼試験	D203 ○園田昌司 ¹ ・山下純 ¹ ・越山洋三 ² ・小原陽子 ¹ ・榎本敬 ¹ (岡山大・植物研 ¹ ・フィールドデータ ²) 草刈がモモ圃場の昆虫相に及ぼす短期的影響について	E203 ○平田晃一・金澤潤・清田隆太郎・岩佐孝男・山本敦(日本曹達株) ネオニコチノイド系殺虫剤 Acetamiprid (モスピラン) の作用機構	F203 ○大槻恵太 ¹ ・加進丈二 ¹ ・安田哲也 ² (宮城古川農試 ¹ ・中央農研 ²) 合成性フェロモントラップを用いたアカスジカスミカメの予察手法の検討
9:45	A204 ○望月淳 ¹ ・春山直人 ² ・中秀司 ³ ・中平賢吾 ⁴ (農環研 ¹ ・栃木農環セ ² ・鳥取大 ³ ・九大 ⁴) ヤマトクサカゲロウ <i>Chrysoperla nipponensis</i> 種群の分布と分子系統関係	B204 内藤裕彬 ¹ ・齊藤準 ² ・網干貴子 ¹ ・吉永直子 ¹ ・小野肇 ¹ ・西田律夫 ¹ ・○森直樹 ¹ (京大院農応用生命 ¹ ・京都工繊大院応用生物 ²) クチナシの化学的防御機構とオオスカシバによる対抗適応	C204 ○手柴真弓 ¹ ・清水信孝 ¹ ・杉江 元 ² ・田端純 ² (福岡農総試 ¹ ・農環研 ²) 現地カキ園における寄生蜂誘引物質のフジコナカイガラムシに対する防除効果	D204 ○森本信生・吉田信代(畜草研) 播種時期の異なる飼料用トウモロコシにおけるアワノメイガの被害	E204 平田晃一 ¹ ・土田聡 ² ・松浦明 ³ ・○清田隆太郎 ¹ ・金澤潤 ¹ ・山本敦司 ¹ (日本曹達株)小田原研 ¹ ・果樹研究所 ² ・宮崎総農試 ³) ワタアブラムシにおけるネオニコチノイド剤抵抗性機構	F204 ○奥谷恭代 ¹ ・武田藍 ² ・宮本雅之 ¹ ・安田美香 ³ ・安田哲也 ³ ・平江雅宏 ³ ・望月文昭 ⁴ (鳥取農総研農試 ¹ ・千葉農林総研 ² ・中央農研 ³ ・信越化学 ⁴) 水田におけるアカスジカスミカメ合成性フェロモントラップとすくい取り法による捕獲消長の比較

3月28日(木) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G201 ○星野滋 ¹ ・富樫一巳 ² (広島総研農技セ ¹ ・東大院農 ²) イネシンガレセンチュウの生存率に対する温度の影響	H201 ○弘中満太郎 ¹ ・向井裕美 ² ・藤條純夫 ³ ・針山孝彦 ¹ (浜松医大・生物 ¹ ・鹿児島大・連合農学 ² ・佐賀大・農 ³) なぜ昆虫は灯火に誘引されるのか：昆虫走光性の新しい理解	I201 ○徳丸晋 ¹ ・山下幸司 ² ・松田智彦 ¹ (京都府茶業研究所・京都府山城北普及セ ²) 京都府のチャにおけるチャノキイロアザミウマの殺虫剤感受性	J201 ○粥川琢巳 ¹ ・小林功 ¹ ・内野恵郎 ¹ ・瀬筒秀樹 ¹ ・木内信 ¹ ・比留間潔 ² ・石川幸男 ³ ・篠田徹郎 ¹ (生物研 ¹ ・弘大農生 ² ・東大院農 ³) 変態抑制作用を有する <i>Krüppel homolog 1</i> 遺伝子の機能解析	K201 ○田中幸一・馬場友希・楠本良延(農環研) 水田の周辺環境および農法がクモ類に及ぼす影響 ¹ 。広域スケールにおける解析	L201 ○桐谷幸生・猪俣伸一・平瀬寒月(三井化学アグロ) クモヘリカメムシの被害稲(しいな、屑米、斑点米)と生活史との関係 I	9:00
G202 ○横澤志織・関功介・桑澤久仁厚(長野県野菜花き試)キタネグサレセンチュウによるレタス生育不良とその品種間差異	H202 ○宮本武彰 ¹ ・増田俊雄 ¹ ・佐藤美和 ¹ ・弘中満太郎 ² ・針山孝彦 ² (宮城農園研 ¹ ・浜松医大・生物 ²) 375および450 nm LEDパネル光源に対するアシタバハモグリバエの定位位置	I202 ○新垣則雄 ¹ ・外間康洋 ¹ ・永山敦士 ¹ ・安居拓恵 ² ・辻井直 ² ・田中誠二 ² ・望月文昭 ³ ・内藤尚之 ³ ・本郷智明 ³ ・若村定男 ⁴ (沖農研 ¹ ・農生研 ² ・信越化学 ³ ・京学大 ⁴) 交信かく乱法によるケブカアカチャコガネの防除実証試験	J202 ○藤井毅 ¹ ・安河内祐二 ² ・戎焯 ¹ ・中野亮 ³ ・石川幸男 ¹ (東大院農 ¹ ・生物資源研 ² ・果樹研 ³) アワノメイガ類の性フェロモン生合成に関与する不飽和化酵素遺伝子の種間比較	K202 ○馬場友希・田中幸一・楠本良延((独)農環研) 水田の周辺環境および農法がクモ類に及ぼす影響 ² 。景観スケールにおける解析	L202 ○猪俣伸一・桐谷幸生・平瀬寒月(三井化学アグロ) クモヘリカメムシの被害稲(しいな、屑米、斑点米)と生活史との関係 II	9:15
G203 ○伊藤賢治(農研機構・北農研) ハリナスビとエンバク野生種混作後のキタネグサレセンチュウ被害抑制効果	H203 ○高梨琢磨 ^{1,2} ・北島博 ¹ ・喜友名朝次 ³ ・土原和子 ² (森林総研 ¹ ・同志社大NSBN研セ ² ・沖縄森研 ³) キオビエダシヤクの幼虫は音受容感覚子を用いて寄生を回避する	I203 ○松山隆志 ¹ ・佐渡山安常 ¹ ・山岸正明 ¹ ・金城邦夫 ¹ ・親富祖明 ¹ ・照屋清仁 ¹ ・嘉数怜 ¹ ・上原理 ¹ ・西村真 ¹ ・小濱継雄 ² ・原口大 ² ・城本啓子 ³ (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ² ・琉球産経 ³) 久米島におけるアリモドキゾウムシの根絶防除：ハブも林も踏み越えて	J203 粥川琢巳・立石剣・篠田徹郎(生物研) JHシグナリング解析に有用なココヌストモドキ細胞株の樹立	K203 ○Trisnawati Dina ¹ ・佐藤智 ² ・安田弘法 ² (岩手大院・連合農 ¹ ・山形大・農 ²) 継続年数の異なる有機栽培水田において生物由来の栄養源が地上部の生物間相互作用に与える影響	L203 ○湯川淳一 ¹ ・瀬戸苑子 ² ・杉田麻美 ² (九大 ¹ ・九大・農・昆虫 ²) 虫えい形成性タマバエ類(ハエ目)の生息環境の類型化に基づく侵入昆虫の定着リスク評価に関する基礎研究	9:30
G204 ○水久保隆之・富高保弘・藤本岳人・植原健人(中央農研) 植物ウイルスとメチオニンのネコブセンチュウ防除に及ぼす効果について	H204 ○深谷緑 ^{1,2} ・高梨琢磨 ³ (東大・農・森林動物 ¹ ・日大生物資源 ² ・森林総研 ³) 断続的な振動刺激によるマツノマダラカミキリの摂食抑制	I204 ○佐渡山安常 ¹ ・松山隆志 ¹ ・原口大 ² ・小濱継雄 ² (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ²) 久米島アリモドキゾウムシ根絶事業における持込みによる再侵入事例と対策	J204 ○大門高明・内野恵郎・瀬筒秀樹・篠田徹郎(農業生物資源研究所) ノックアウトカイコ作出によるJHシグナリングの分子機構の解析	K204 ○高柳春希・安田弘法(山形大・農) 水田の多様な生物の機能—11 ドジョウとタニシの種間相互作用とそれがイネの生育に及ぼす影響	L204 ○キムワンギウ ¹ ・杉田麻美 ² ・瀬戸苑子 ² ・湯川淳一 ³ (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・九大・農・昆虫 ² ・九大 ³) 虫えい形成性タマバエ類(ハエ目)の生息環境の類型化に基づく韓国と福岡におけるタマバエ相の比較および未記録種の発見と侵入種定着の可能性	9:45

3月28日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
10:00	A205 ○立田晴記 ¹ ・佐々木健志 ² (琉球大学農学部 ¹ ・琉球大学風樹館 ²) 石垣島に生息するニイニイゼミ2種の求愛歌に基づく種判別	B205 ○安居拓恵 ¹ ・辻井直(農業生物資源研) ゴマダラカミキリ3個体群間の配偶行動とコンタクトフェロモン成分との関係	C205 ○世古智一 ¹ ・安部順一郎 ² ・三浦一芸(近中四農研) 露地ナスでの飛ばないナミテントウの放飼に適した齢期・密度の推定	D205 ○嶽崎研 ¹ ・宮路克彦(鹿児島農総セ大島) 鹿児島県奄美地域のサトウキビにおけるイネヨトウの発生実態と防除	E205 ○松村正哉 ¹ ・真田幸代 ¹ ・大塚彰 ¹ ・竹内博昭 ^{1,2} ・佐藤雅 ^{1,3} ・大津礼子 ⁴ ・作本信次 ⁵ (九州沖縄農研 ¹ ・現在:中央農研北陸 ² ・現在:横浜植防 ³ ・長崎県 ⁴ ・熊本県 ⁵) 日本に飛来したトビイロ・セジロウンカの薬剤感受性の2005~2012年の変動	F205 ○武田藍 ¹ ・奥谷恭代 ² ・宮本雅之 ² ・安田美香 ³ ・安田哲也 ³ ・平江雅宏 ³ ・望月文昭 ⁴ (千葉農林総合研究センター ¹ ・鳥取農林総合研究所農業試験場 ² ・中央農業総合研究センター ³ ・信越化学 ⁴) アカスジカスミカメ合成性フェロモントラップの捕獲数を用いた斑点米被害発生確率の推定
10:15	A206 ○土 ¹ ・田聡 ¹ ・武田光能 ² ・河合章 ² ・Pham ThiVuong ³ (果樹研 ¹ ・野茶研 ² ・PPRI, Vietnam ³) 東南アジアに分布するチャノキイロアザミウマの系統解析	B206 ○今野浩太郎 ¹ ・中村匡利(農業生物資源研究所) シュウ酸カルシウム針状結晶の耐虫性効果および他の耐虫性物質との共存効果	C206 ○藤本顕次 ¹ ・岡留和伸 ² ・櫻井民人 ³ ・中尾史郎 ¹ (京都府立大・応用昆虫 ¹ ・京都農技センター ² ・東北農研 ³) アカメガシワクダアザミウマ雌成虫の休眠性における地理的変異	D206 ○貴志学 ¹ ・赤井孝行 ² ・井沼崇 ¹ ・森口幸宣 ¹ (和歌山果試 ¹ ・JAありだ ²) 和歌山県中部でのマイマイ類の発生状況と防除対策	E206 ○中川浩二 ¹ ・溝部信二 ² ・殿河内寿子(山口農林総セ) イミダクロブリド剤およびフィプロニル剤で選抜したトビイロウンカの各種薬剤に対する感受性変化	F206 ○安田哲也 ¹ ・平江雅宏 ¹ ・安田美香 ¹ ・武田藍 ² ・樋口博也 ¹ ・渡邊朋也 ¹ ・望月文昭 ³ (中央農業総合研究センター ¹ ・千葉県農林総合研究センター ² ・信越化学 ³) 合成フェロモン剤を併用した2種カスミカメシ類の効率的フェロモントラップ
10:30	A207 ○井手竜也 ¹ ・阿部芳久(九州大院・比文) クヌギ節(ブナ科:コナラ属:コナラ亜属)上で世代交番をおこなうAndricus属(膜翅目:タマバチ科:ナラタマバチ族)の未記載種の発見	B207 ○東田景太 ¹ ・長谷川翔一 ¹ ・渡部宏 ¹ ・矢野栄二 ¹ ・小澤理香 ² ・高林純示 ² (近畿大・農 ¹ ・京大・生態研 ²) アブラムシや植物由来のにおい物質に対するショクガタマバチ成虫の誘引反応	C207 ○松尾和典 ¹ ・広瀬義躬 ² (九大院・生資環・昆虫 ¹ ・九大 ²) チャバネアオカメムシの主要卵寄生蜂チャバネクロタマゴバチには2種が混同されている	D207 ○軸丸祥大(広島総研・農技セ) ビワを食害したマイマイガ幼虫は何処からやってきたのか?:ビワ圃場内・外の卵塊調査	E207 ○河合佐和子 ¹ ・野田博明 ² ・小泉蓉子(生物研) トビイロウンカのニコチン性アセチルコリン受容体(AChR)遺伝子の識別と発現解析	F207 ○小澤朗人 ¹ ・内山徹 ¹ ・小杉由紀夫 ² ・芳賀一 ² (静岡茶研センター ¹ ・静岡防除所 ²) 静岡県の茶園におけるチャトゲコナジラミの発生消長一発生2年目の状況一
10:45	A208 ○阿部芳久 ¹ ・井手竜也 ² ・山岸健三 ³ ・鈴木彩夏 ³ ・三浦一芸 ⁴ (九大院・比文 ¹ ・九大院・比文・学振DC ² ・名城大・農 ³ ・近中四農研セ、広島大院 ⁴) ヤドカリタマバチ族(膜翅目:タマバチ科)におけるゴール形成蜂と考えられる未記載種の発見ならびに本族の産雌性単為生殖と <i>Wolbachia</i> との関係	B208 ○上原拓也 ¹ ・中秀司 ² ・松山茂 ¹ ・安藤哲 ³ ・本田洋 ¹ (筑波大・生命環境 ¹ ・鳥取大・農 ² ・農工大院・BASE ³) セスジズメ(<i>Theratra oidenrandie oidenrandie</i>)の性フェロモンの同定	C208 ○桑澤久仁厚 ¹ ・清澤靖仁 ¹ ・小原慎司 ² (長野県野菜花き試 ¹ ・(株)アグリ総研 ²) 夏秋採りいちご栽培で発生する微小害虫類に対するオオカメムシによる密度抑制効果	D208 ○杖田浩二 ¹ ・妙楽崇(岐阜農技セ) カキノヘタムシガに対するフルベンジアミド散布で得られる同時防除効果について	E208 ○辻本克彦 ¹ ・杉井信次(シンジエンタジャパン) ビメトロジンに対する水稻害虫トビイロウンカの感受性検定法	F208 ○小杉由紀夫 ¹ ・芳賀一 ¹ ・小澤朗人 ² ・内山徹 ² (静岡防除所 ¹ ・静岡農技研茶研セ ²) 静岡県におけるチャトゲコナジラミの発生の広がり

3月28日(木) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G205 ○藤本岳人 ¹ ・瀬尾茂美 ² ・安部洋 ³ ・水久保隆之 ¹ (NARC ¹ ・NIAS ² ・RIKEN BRC ³) サツマイモネコブセンチュウの感染を抑制する植物由来物質の同定	H205 ○西出雄大 ¹ ・田中誠二 ¹ ・佐伯真二郎 ² ・鈴木文詞 ³ (農生研・バツタ研 ¹ ・神戸大・農学研究科 ² ・千葉大・学振PD ³) サバクトビバッタとトノサマバッタにおける孵化時刻の制御	I205 ○金城邦夫 ¹ ・佐渡山安常 ¹ ・山岸正明 ¹ ・親富祖明 ¹ ・松山隆志 ¹ ・照屋清仁 ¹ ・嘉数怜 ¹ ・友利千賀子 ¹ ・當間ひろの ¹ ・上原理 ¹ ・小濱継雄 ² ・原口大 ² (沖縄防技セ ¹ ・沖縄農研セ ²) 津堅島におけるアリモドキゾウムシ・イモゾウムシ根絶事業	J205 ○盛雄治・金児雄 ¹ ・比留間潔(弘前大・農学生命) カイコVerson's glandの体節特異的に起こる細胞死に対するJHによる制御	K205 ○星崎杉彦(東大農学生命科学) カプトムシの体サイズの性的二型は、幼虫期のいつ形成されるか?	L205 ○安藤喜一(弘前市) オオカマキリ卵包の高さと積雪深との関係	10:00
G206 ○関本茂行・水久保隆之・植原健人(中央農研) 東日本におけるクローバシストセンチュウの発生状況	H206 ○佐伯真二郎 ¹ ・西出雄大 ¹ ・田中誠二 ¹ ・竹田真木生 ² (農生研 ¹ ・神戸大農学研究科 ²) トノサマバッタにおける広食性の意義と食草選択行動の解析	I206 ○宇久田理恵 ¹ ・原口大 ¹ ・栗和田隆 ² ・西田律夫 ³ ・吉田幸広 ³ ・江口恭 ³ ・小濱継雄 ¹ (沖縄農研セ ¹ ・九冲農研セ ² ・京大農 ³) 風洞を用いたナスミバエ誘引物質のスクリーニング	J206 ○櫻井健志 ¹ ・光野秀文 ¹ ・田淵理史 ² ・瀬筒秀樹 ³ ・神崎亮平 ^{1,2} (東大・先端研 ¹ ・東大院・工 ² ・生物研 ³) カイコガsensory neuron membrane protein-1の発現パターンと機能解析	K206 ○TRIYOGO Ananto ¹ ・YASUDA Hironori ¹ (UGAS Iwate, Yamagata Univ. ¹ ・Yamagata Univ. ²) クリタマバチのゴール形成が寄主植物の反応を通じ2種の植食者に及ぼす影響	L206 ○岩泉連(横浜植防) ゴマダラカミキリ成虫の日周行動調査	10:15
G207 ○高部真典(山形農総研水田農試) 山形県庄内地域のエダメより採取されたダイズシストセンチュウの特徴	H207 ○香取郁夫・藤田新・西尾友輝(近畿大・農) ある種のチョウの幼虫に見られる頭部突起の適応的意義2～ゴマダラチョウの場合:「天敵からの防衛仮説」の検証～	I207 ○江口恭 ¹ ・吉田幸広 ¹ ・宇久田理恵 ² ・原口大 ² ・小濱継雄 ² ・小野肇 ¹ ・西田律夫 ¹ (京大化学生態学 ¹ ・沖縄農研センター ²) ナスミバエ雄誘引物質類縁体の合成および活性の評価	J207 ○横山拓彦 ¹ ・比留間潔 ¹ ・富田秀一郎 ² (岩手連合農学・生物研 ²) カイコのエクダイン応答性転写因子BHR4の蛹化時期における生体内での役割	K207 ○五箇公一 ¹ ・井上真紀 ¹ ・森口紗千子 ¹ ・斎藤歩希 ² (国立環境研究所 ¹ ・立正大学 ²) 特定外来生物セイヨウオオマルハナバチの防除手法開発	L207 Bhattacharyya Badal ¹ ・Pujari Dwiban ¹ ・Handique Gautam ¹ ・安居拓恵 ² ・田中誠二 ² (Assam Agricultural University ¹ ・農生研大わし ²) インド、アッサムでコガネムシの大害虫出現	10:30
G208 ○相場聡(北農研) 線虫感受性ダイズ10品種におけるダイズシストセンチュウの増殖程度の違い	H208 ○吉田后那 ¹ ・伊藤優希 ² ・大村尚 ³ ・蟻川謙太郎 ¹ ・木下充代 ¹ (総研大・先導研 ¹ ・広島大・生物生産 ² ・広島大・院・生物圏 ³) ナミアゲハの生得的な色嗜好性は柑橘類の匂いによって変化する	I208 ○原口大 ¹ ・宇久田理恵 ¹ ・小濱継雄 ¹ ・栗和田隆 ² ・吉田幸広 ³ ・江口恭 ³ ・西田律夫 ³ (沖縄農研セ ¹ ・九冲農研セ ² ・京大農 ³) ナスミバエのトラップ開発	J208 ○新川徹・伊藤克彦・城所久良子・門野敬子・行弘文子・野田博明(農生資研) 農業用殺菌剤ペフラン液剤を経口投与されたカイコの同化能力の消失について	K208 ○藤家梓 ¹ ・石垣圭一 ² ・井村信弥 ² ・寺嶋芳江 ² (元JICA専門家 ¹ ・琉球大 ²) 沖縄県八重山諸島におけるヒメシユモクバエの分布密度	L208 ○關戸智恵・矢野修一(京大院・農・生態情報) ナミハダニの休眠と、配偶戦略の関係	10:45

3月28日(木) 午前 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
11:00	A209 ○富田秀一郎・行弘研司・河本夏雄(生物研) ミトコンドリアゲノムを用いた多新翅類の系統解析	B209 ○大村尚・野口太郎(広島大・院・生物圏) ナミアゲハの配偶行動における触診の意味：体表脂質の味覚受容	C209 ○五十嵐清晃 ¹ ・野村昌史 ¹ ・大井田寛 ² (千葉大院・園芸 ¹ ・千葉農林総研 ²) 温室試験における人工飼料散布によるオオメカメシシの定着向上効果の検証	D209 ○小堀陽一 ¹ ・TheinMuMu ² ・HanboonsongYupa ² (国際農研 ¹ ・Khon Kaen Univ. ²) サトウキビ白葉病の虫媒伝染リスク評価	E209 ○上田茂生 ¹ ・本林隆 ¹ (東京農工大学農学部) 水田メソコスムにおける水生昆虫群集に対するイタダカブリ、コチアジンの影響	F209 ○上杉龍士・佐藤安志(野茶研(金谷)) 侵入害虫チャトゲコナジラミの初発地点からの分布拡大速度推定
11:15	A210 ○高務淳 ¹ ・仲井まどか ² (森林総研 ¹ ・東京農工大学 ²) 昆虫ボックスウイルスから見つかったゲノム外DNA断片について	B210 ○藤井達也 ¹ ・望月文昭 ¹ ・内田一秀 ² ・村上芳照 ² (信越化学工業株式会社 ¹ ・山梨県果樹試験場 ²) ブドウオオトリバ性フェロモンの再検討及びブドウトリバとの生殖隔離	C210 ○井村岳男(奈良農総セ) 奈良県の促成イチゴにおける天敵製剤を利用したナミハダニ黄緑型の防除	D210 ○橋山葵 ¹ ・野村昌史 ¹ ・栗原潤 ² ・豊嶋悟郎 ³ (千葉大院・園芸 ¹ ・長野野花試佐久支場 ² ・長野野花試 ³) 交尾の有無によるタマナギンウワバメス成虫の飛翔活性の違い	E210 ○横山朋也 ¹ ・鹿島哲郎 ¹ ・土田聡 ² (茨城農総セ園芸研究所 ¹ ・農研機構果樹研究所 ²) チャノキイロアザミウマで検出された合成ピレスロイド剤抵抗性に関与する遺伝子変異	F210 ○石本万寿広 ¹ ・岩田大介 ¹ ・中島具子 ² ・西島裕恵 ³ ・高橋明彦 ⁴ ・安田哲也 ⁵ (新潟農総研作物研 ¹ ・山形農研セ ² ・富山農総セ農研 ³ ・中央農研・北陸 ⁴ ・中央農研 ⁵) アカヒゲホソミドリカスミカメの新旧2種フェロモン剤の誘殺数の関係
11:30	A211 ○鎌田龍星・伊澤晴彦・星野啓太・佐々木年則・沢辺京子(感染研昆虫医科) コガタアカイエカ由来ラブドウイルスは宿主のRNAスプライシング機構を利用して成熟mRNAを発現する	B211 ○羅智心・本田洋(筑波大・生命環境) モモノゴマダラノメイガの産卵行動における寄主植物香気の機能	C211 ○片山晴喜 ¹ ・土井誠 ¹ ・大村和宏 ² ・興津敏広 ³ (静岡防除所 ¹ ・静岡志太榛原農林 ² ・静岡西部農林 ³) 天敵カブリダニ類を中心としたガーベラにおけるIPMの現地実証	D211 ○舟山健・小松美千代(秋田果樹試) 土着カブリダニを保護した慣行リンゴ園におけるナミハダニの発生消長	E211 ○緒方法親 ¹ ・古崎利紀 ² ・秦珠子 ³ ・横山岳 ⁴ ・岩淵喜久男 ¹ (東京農工大・応用昆虫 ¹ ・東京農工大・農ゲノム ² ・生物研・新機能素材 ³ ・東京農工大・蚕学 ⁴) 培養蚕脂肪体のフェノバルビタール及びペルメトリン処理による遺伝子発現変動	F211 ○行徳裕・児玉賢幸(熊本農研セ) 熊本県で確認されたホソミドリカスミカメシ類の種構成の変化
11:45	A212 ○中島信彦・村上理都子(生物研) イネグラッシースタントウイルスートピイロウンカ間で相互作用するタンパク質の探索	B212 ○薬丸寿弥・大村尚(広島大院・生物圏) ルリシジミ雄成虫の発香鱗に由来するラクトン化合物	C212 ○大野和朗・林和毅・竹之山杏子・北原結花・佐藤信輔(宮崎大・農) 保全的生物的防除を基幹とした害虫管理：インセクタリアープラントからの天敵の移動	D212 ○大園正史・松比良邦彦・井上栄明(鹿児島農総セ) 選択性殺虫剤使用体系の露地ピーマンにおける害虫と土着天敵の発生消長	E212 ○山本敦司 ¹ ・豊嶋悟郎 ² ・栗原潤 ² ・小林茂 ³ ・正木李恵子 ¹ (日本曹達(株)小田原研 ¹ ・長野県野菜花き試 ² ・(株)日曹分析セ ³) セル苗処理剤アセタミプリドを組込んだレタス・オオタバコガの体系防除	F212 ○岩田大介 ¹ ・石本万寿広 ¹ ・田淵研 ² ・安田哲也 ³ ・望月文昭 ⁴ (新潟農総研作物研 ¹ ・東北農研 ² ・中央農研 ³ ・信越化学 ⁴) アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメの水田内発生量に影響を及ぼす要因

3月28日(木) 午前 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G209 ○植原健人 ¹ ・伊藤賢治 ² ・奈良部孝 ² ・水久保隆之 ¹ ・増田税 ³ (中央農研 ¹ ・北海道農研 ² ・北海道大学 ³) トマトのシストセンチュウ抵抗性遺伝子の特徴とDNAマーカー	H209 ○水野尊文 ¹ ・秋野順治 ¹ ・萩原康夫 ² (京工繊大 ¹ ・昭和大 ²) 蜜を出さないミヤマシジミ蛹がアリを誘引する戦略	I209 ○嘉数怜・佐渡山安常(沖縄防技セ) ウリミバエ蛹の地上放飼における夏季の羽化率低下の要因と対策	J209 王秋実 ¹ ・江木雄一 ¹ ・大石勝隆 ² ・竹田真木生 ¹ ・坂本克彦 ¹ (神戸大院・農学 ¹ ・産総研・バイオメディ ²) サクサン蛹の休眠覚醒における光周性にはメラトニンとドーパミンが関与する	K209 ○徳田誠 ¹ ・川内孝太 ¹ ・松尾和典 ² ・岩崎由美 ³ ・菊池健 ⁴ ・江崎逸郎 ⁵ ・菱井徹 ⁶ ・篠木秀紀 ⁷ (佐大・農 ¹ ・九大院・生資環 ² ・Project WAVE ³ ・八丈植物公園 ⁴ ・三宅島アカコッコ館 ⁵ ・御蔵島観光協会 ⁶ ・日本野鳥の会 ⁷) スタジイタマバエの分類学的地位と生態特性および伊豆諸島における分布と密度	L209 ○木村勇司(青森農林総研) 青森県におけるオオタバコガ休眠蛹の発生時期と越冬の可能性	11:00
G210 ○宮下奈緒 ¹ ・藪哲男 ¹ ・栗原孝行 ² ・古賀博則 ² (石川農研 ¹ ・石川県立大学 ²) トマト根こぶ内におけるサツマイモネコブセンチュウ雌成虫の行動様式の生体観察	H210 ○中野亮(農研機構・果樹研) モモノゴマダラノメイガの飛来を阻害する超音波特性	I210 ○三浦靖 ¹ ・藤村俊夫 ² ・西山芳邦 ¹ ・金場香織 ³ ・青木英子 ¹ ・藤澤春子 ¹ (香川防除所 ¹ ・香川高松土木 ² ・香川西讃農改セ ³) ニンジンを加害するキクノネハネオレバエの発生消長と防除時期	J210 ○山中明 ¹ ・森山知草 ¹ ・中村冬馬 ¹ ・北沢千里 ² (山口大・理・生物・化学 ¹ ・山口大・教育・理科教育 ²) ジャコウアゲハ幼虫の体色変化に及ぼす温度の影響	K210 ○須藤正博(京大院・農・生態情報) 太陽光紫外線と温度の季節変動が植物ダニによる葉表の利用可能性を制限する	L210 ○伊藤桂(高知大・農) 寄主植物の安定性に対応したナミハダニ属3種の休眠発生パターンの違い	11:15
G211 ○石井駿・上遠野富士夫・土生昶毅 (法政大・生命科学) 12種のハーブ植物に対するホウレンソウケナガコナダニの反応	H211 ○福井昌夫(京大院・昆虫生理) エンマコオロギのもう一つのコーリングソング	I211 ○相花絵里・大槻恵太・加進丈二(宮城古川農試) フタオビコヤガの発生消長と育苗箱施用剤の防除効果	J211 ○小野肇(京大院・農) ショウジョウバエにおけるecdysoneとJHによる蛹化時期の決定機構の解析	K211 ○矢野修一(京大院・農・生態情報) 群れるべきか、群れざるべきか?—ハダニの損得勘定を検証する—	L211 ○新谷喜紀・加藤慶一(南九州大・昆虫生態) 幼虫期の温度と日長によって自在に調節されるキオビエダシヤク蛹の有効積算温度定数	11:30
G212 ○本田善之 ¹ ・中田恵久 ² (山口農総技セ ¹ ・サンケイ化学(株) ²) ホウレンソウケナガコナダニを簡易に確認できるコナダニ見張番の活用と特性	H212 ○杉町誓児・岡田二郎(長崎大・水環・環境) コオロギ嗅覚学習に対するメチルキサントシン類の効果	I212 ○宮路克彦 ¹ ・嶽崎研 ¹ ・新屋敷生男 ² (鹿児島農総セ大島 ¹ ・鹿児島大島支庁 ²) アリモドキゾウムシをほぼ根絶状態にした地区はその後どうなったか?	J212 ○田中一裕 ¹ ・渡康彦 ² (宮城学院女子大・一般教育 ¹ ・芦屋大・臨床教育 ²) 光条件(全暗・全明)が温度周期下でのタマネギバエの羽化リズムに及ぼす影響	K212 ○大槻初音・矢野修一(京大院・農・生態情報) ハダニの分散に捕食者が及ぼす致死・非致死効果	L212 ○河村太(沖縄防技セ) 沖縄本島北部のコルディリネ雨よけ栽培におけるハダニの発生消長	11:45

3月28日(木) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
15:30	A213 ○三橋渡・村路雅彦(生物研) ドウガネブイブイ昆虫ボックスウイルスのゲノム完全解読	B213 ○野口太郎・大村尚(広島大・院・生物圏) ジャコウアゲハ雄成虫の新規香気成分	C213 ○中平賢吾・岩瀬俊一郎・高木正見(九大院・農・生防研) 導入天敵ヨーロッパトビチビアメバチの発生量を増やすための蜜源植物栽培	D213 ○土田祐大 ¹ ・土井誠 ¹ ・片井祐介 ¹ ・多々良明夫 ¹ ・増井伸一 ² (静岡県農林技術研究所 ¹ ・岡県経済産業部 ²) 土着天敵ヒメオオメカメムシの繁殖能力	E213 ○内山徹・小澤朗人(静岡茶研センター) チャノココクモンハマキの薬剤感受性とジアミド剤に対する抵抗性の発達	F213 ○西島裕恵 ¹ ・青山政義 ¹ ・吉島利則 ² ・片山雅雄 ³ ・安田哲也 ⁴ ・望月文昭 ⁵ (富山農総技セ農研 ¹ ・新川農振セ ² ・高岡農振セ ³ ・中央農研 ⁴ ・信越化学 ⁵) 富山県における近年のカスミカメムシ類の発生状況と斑点米率
15:45	A214 ○西東力(静大農) チャトゲコナジラミをめぐる昆虫病原糸状菌について	B214 ○向永真也 ¹ ・大村尚 ¹ ・松本唯佳 ² (広島大・院・生物圏 ¹ ・広島大・生物生産 ²) ネムノキ・メドハギに含まれるキタキチョウの産卵刺激物質	C214 ○高木正見・中平賢吾・岩瀬俊一郎(九大農院) 導入天敵ヨーロッパトビチビアメバチの定着率を高めるための成虫放飼法	D214 ○外山晶敏 ³ ・三代浩二 ³ ・岸本英成 ³ ・井原史雄 ³ ・中野亮 ³ ・土田聡(果樹研) チャバネアオカメムシ幼虫の栄養状態を推定する	E214 ○鈴木芳人(京都市) 散布むらが不可避なケースにおける殺虫剤抵抗性管理	F214 ○高橋明彦 ¹ ・石本万寿広 ² ・岩田大介 ² ・中島具子 ³ ・横山克至 ³ ・西島裕恵 ⁴ (中央農研・北陸 ¹ ・新潟農総研作物研 ² ・山形農総研 ³ ・富山農総セ農研 ⁴) アカヒゲホソミドリカスミカメ合成性フェロモントラップによる地区・経営体を対象とした被害予測
16:00	A215 ○小林大介 ¹ ・伊澤晴彦 ² ・鎌田龍星 ² ・星野啓太 ² ・Ngo Binh ³ ・浅野真一郎 ⁴ ・伴戸久徳 ⁴ ・糸山享 ¹ ・沢辺京子 ² (明治大・農・応用昆虫 ¹ ・感染研・昆虫医科学 ² ・ベトナム科学技術院 ³ ・北大・農・応用分子昆虫 ⁴) 昆虫特異的フラビウイルスAedes flavivirus (AEFV) ベトナム分離株の遺伝子構造解析ならびにAEFVの伝播様式の解析	B215 ○山崎緑平 ¹ ・安藤哲 ² ・松山茂 ³ ・本田洋 ³ (筑波大院 ¹ ・農工大BS ² ・筑波大生命環境系 ³) Type IとType IIの両成分から成るカクモンノメイガの性フェロモン	C215 ○広瀬義躬(九大) 昆虫卵の二次寄生蜂、とくに害虫の生物的防除の阻害要因としての評価	D215 ○河村俊和・東浦祥光・本田善之・出穂美和(山口農林総セ) ハナカメムシ類とアカメガシワクダアザミウマのインセクターープランツとしてのブルーサルビア	E215 ○本山直樹 ¹ ・阿部豊 ² ・田畑勝洋 ³ (東京農大・総研 ¹ ・日本緑化セ ² ・岐阜県森林文化アカデ ³) 最近各地で見られる松枯れ激害の原因	F215 ○吉田信代 ¹ ・森本信生 ¹ ・荒川明 ¹ ・柴卓也 ² ・久保田明人 ³ ・藤森雅博 ³ ・菅原幸哉 ³ ・増中章 ¹ (畜草研 ¹ ・中央農研 ² ・東北農研 ³) エンドファイト感染イタリアンライグラスの圃場における斑点米カメムシ抑制効果
16:15	A216 ○奥野正樹 ¹ ・川本啓介 ² ・藤崎憲治 ³ (岐阜大・昆虫生態 ¹ ・京大・昆虫生態 ² ・岡山県赤磐市) トビロケアリに対する昆虫病原性糸状菌の病原性とその変化	B216 ○柴崎寛 ¹ ・中秀司 ² ・鈴木俊郎 ³ ・山本雅信 ¹ ・安藤哲 ¹ (東京農工大学院BASE ¹ ・鳥取大学農学部 ² ・岐阜県農業技術センター ³) イラガ性フェロモンのGC-FT-IRを用いた構造決定および野外誘引試験	C216 ○高須啓志(九大・院農) 野外における卵寄生蜂マルカメクロタマゴバチの寄生活動	D216 ○村上芳照 ¹ ・高橋弘行 ² ・内田一秀 ¹ ・綿打享子 ¹ ・功刀幸博 ¹ (山梨果試 ¹ ・(株)サイエナジー ²) モモ果実輸出に向けた軟X線を用いたモモシンクイガ被害果の検出	E216 ○深澤直人・土屋聡志・高橋竜太(JT葉たばこ研) UV-LED点滅光源のタバコシバンムシ誘引性に対する周波数・Duty比の影響	F216 ○清水信孝 ¹ ・中村利宣 ² ・浦広幸 ¹ (福岡農総試 ¹ ・福岡防除所 ²) 福岡県のダイズにおけるミナミアオカメムシの発生消長と年次変動

3月28日(木) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G213 ○高木素紀 ¹ ・齋藤望奈 ¹ ・佐藤泰三 ³ ・沢田英司 ² ・豊田剛己 ⁴ ・鹿島哲郎 ¹ (茨城農総セ・園研 ¹ ・徳島高技セ ² ・徳島農研 ³ ・農工大・農 ⁴) 茨城県のレンコン田における太陽熱土壌消毒によるレンコンネモグリセンチュウ防除の可能性	H213 ○釘宮聡一 ¹ ・下田武志 ² (独)農環研 ¹ ・中央農研 ²) コナガサムライコマユバチ雌の餌探索キューについて	I213 ○樋口聡志・坂本幸栄子・行徳裕(熊本農研セ) セジロウナカが媒介するイネ南方黒すじ萎縮病に対する箱施薬剤の被害抑制効果	J213 ○朴文守 ¹ ・朴杓允 ² ・竹田真木生 ³ (神戸大学 遺伝子実験センター ¹ ・神戸大学 名誉教授 ² ・神戸大学 農学部 ³) 脂肪体から中腸へワモンゴキブリが持つ飢餓耐性機構とは何か	K213 ○水谷信夫(農研機構九州沖縄農研) ミナミアオカメムシの春季と秋季における野生寄主植物	L213 ○今井利宏(JT 葉たばこ研) 栃木県小山市におけるクロメンガタズメの発生生態	15:30
G214 ○笠井敦 ¹ ・鈴木丈詞 ² ・大山克己 ³ ・天野洋 ¹ (京大院農・生態情報 ¹ ・千葉大・学振PD ² ・千葉大・環境フィールド ³) ホウレンソウケナガコナダニの歩行に及ぼす温湿度の影響	H214 ○竹本裕之 ¹ ・ピケットジョン ² ・パウエルウィルブ ² ・戒能洋一 ³ ・高林純示 ⁴ (静岡大・技術部 ¹ ・イギリス・ロザムステッド研究所 ² ・筑波大・生命環境 ³ ・京大生態研 ⁴) 寄主被害植物の放出する特異的な化合物に対する寄生蜂エルビアブラバチの応答	I214 ○重久眞至 ¹ ・江波義成 ¹ ・水上智道 ² ・田中庸之 ² ・吉田隆延 ² (滋賀農技セ ¹ ・生研センター ²) 超音波を利用したダイズのハスモンヨトウ被害軽減効果の検討	J214 ○RongYu ¹ ・藤井毅 ¹ ・勝間進 ¹ ・安藤哲 ² ・石川幸男 ¹ (東大院・農 ¹ ・農工大・BASE ²) アメリカシロヒトリのフェロモン腺で高発現しているP450遺伝子の性状解析	K214 ○伊藤玲央 ¹ ・湯川淳一 ² (九大院農 ¹ ・九大 ²) ミナミアオカメムシとアオクサカメムシ(カメムシ目:カメムシ科)の種間交尾による早寿命への影響	L214 ○宮竹貴久 ¹ ・澤谷祐輝 ¹ ・高橋祐衣 ¹ ・角拓人 ¹ ・五島千秋 ¹ ・三浦一芸 ² (岡大・院環境生命 ¹ ・近中四農研 ²) 外来種オカダンゴムシの侵略状況と在来コシビロダンゴムシ類について	15:45
G215 ○三田村敏正 ¹ ・荒川昭弘 ¹ ・上遠野富士夫 ² (福島農総セ ¹ ・法政大・生命科学 ²) 福島県におけるユキヤナギハマキフシダニ <i>Eriophyes</i> sp. の発生状況	H215 館英夕貴 ¹ ・刑部正博(京大・院農・生態情報) 眼の無いカブリダニの紫外線忌避行動と餌ハダニのcue	I215 ○渡辺雅夫(山口大・院・理工学(理)) ハスモンヨトウの超音波に対する反応性	J215 ○金児雄 ^{1,2} ・比留間潔 ^{1,2} (弘前大・農学生命 ¹ ・岩手大・連合農学 ²) インスリンにより誘導されるVerson's glandの蛹コミットメント	K215 ○貝和菜穂美 ¹ ・細川貴弘 ² ・深津武馬 ² (東京大学 ¹ ・産総研 ²) クヌギカメムシにおける産卵場所選択の方位選好性と環境要因	L215 ○西野実 ¹ ・大仲桂太 ¹ ・鈴木賢(三重農研) 三重県におけるミナミアオカメムシの分布域変動と冬期の気温分布	16:00
G216 ○上遠野富士夫 ¹ ・岸本英成 ² (法政大・生命科学 ¹ ・果樹研・カンキツ ²) 日本の農作物から新たに発見されたフシダニ2種について	H216 ○長泰行 ¹ ・Ignacio Maira ² ・Sabelis Maurice ² ・Janssen Arne ² (千葉大院・応用昆虫 ¹ ・University of Amsterdam ²) 目には目を、歯には歯を:カブリダニの仕返し行動	I216 ○川西健児・青木英子・藤澤春子(香川県農試防除所) 香川県におけるオオタバコガの薬剤感受性	J216 ○比留間潔 ¹ ・秋元真理 ¹ ・杉目康広 ¹ ・金児雄(弘前大・農生) インスリンによるcrochet産生細胞の細胞死誘導	K216 ○藤條純夫 ¹ ・龍田勝輔 ² ・松永禎史 ³ ・福田健 ⁴ ・崔東魯 ⁵ ・大塚彰 ⁶ (佐賀大 ¹ ・佐賀大農 ² ・サンケイ化学 ³ ・鹿児島農総セ ⁴ ・韓国園芸薬草研 ⁵ ・九沖農研 ⁶) 中国南部および台湾を飛来源とするハスモンヨトウの九州および韓国南部への飛来	L216 大角裕貴 ¹ ・井餘田航希 ¹ ・白木隆士 ¹ ・斉藤聖枝 ¹ ・中城満 ¹ ・江見健太郎 ¹ ・井出隆太 ¹ ・関本岳朗 ¹ ・原田哲夫(高知大・院・環境生理) 外洋棲ウミアメンボ類の生息密度と溶存酸素量・クロロフィル量との関係	16:15

3月28日(木) 午後 一般講演

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
16:30	A217 ○佐藤大樹・高務淳(森林総研) <i>Torrubiella superficialis</i> の無性世代によるカイガラムシ類流行病の可能性	B217 ○田端純 ¹ ・手柴真弓 ² ・清水信孝 ² ・杉江元 ¹ (農環研 ¹ ・福岡県農総試 ²) フジコナカイガラムシの性フェロモンの合成方法と交信攪乱法への利用の可能性	C217 ○土田努 ¹ ・古賀隆一 ² ・深津武馬 ² (富山大 ¹ ・産総研 ²) 体色を変える共生細菌:多重感染による影響の解析	D217 ○高篠賢二・伊藤正仁・小西和彦(北農研) ヘイオーツリピングマルチ栽培によりバレイショ圃場のゴミムシ類は増えるか	E217 ○川田祐輔 ¹ ・大矢武志 ¹ ・糸山享 ² (神奈川農技センター ¹ ・明治大学農学部 ²) ヒメハナカメムシ類の種構成と周年変動～神奈川県農業技術センターの場合～	F217 ○鴨志田徹也 ¹ ・竹内敬一朗 ² ・新谷雅敏 ³ (京都防除所 ¹ ・京都乙訓普及センター ² ・JA京都中央 ³) 京都府におけるミナミアオカメムシの分布および発生消長
16:45	A218 ○石井嶺広 ¹ ・竹下隼也 ¹ ・小池正徳 ¹ ・相内大吾 ² (帯広畜大・環境微生物 ¹ ・帯広畜大・原虫病研 ²) <i>Anopheles stephensi</i> に対する野生蚊由来 <i>Beauveria bassiana</i> の感染動態の観察	B218 ○中野昭雄 ¹ ・小澤理香 ² ・林鎬俊 ² ・上船雅義 ² ・高林純示 ² (徳島農研 ¹ ・京大生態研 ²) オクラ先端部におけるヒメハナカメムシ類の発生動態と揮発性物質の関与	C218 ○杉本貴史・土田努(富山大・先端ライフサイエンス) 体色を変化させる共生細菌は、宿主の内分泌系に影響を与えているか?	D218 ○東浦祥光(山口県農林総セ・柑きつ振興センター) 柑橘園の害虫・天敵調査における小型黄色水盤トラップの活用	E218 ○守屋成一 ¹ ・Tshering Penjor ² (中央農研 ¹ ・RNR-RDC, Bhutan ²) ブータンで果実類を加害するミバエ類の予備的野外調査	F218 ○田中寛 ¹ ・西濱絢子 ² ・井奥由子 ² ・砂池利浩 ² ・那須義次 ² ・岡田清嗣 ¹ ・柴尾学 ¹ (大阪環農水研 ¹ ・大阪府環境農林水産部 ²) ハウスナスにおけるオオタバコガの産卵状況
17:00	A219 ○笹原勇太(帯広畜大 環境微生物) 昆虫寄生性 <i>Lecanicillium</i> 属菌のPGPF効果と誘導抵抗性	B219 ○西田律夫 ¹ ・中平昌孝 ¹ ・小野肇 ¹ ・TanKeng Hong ² ・Howcroft Neville H. S. ³ (京大院農 ¹ ・元マレーシア理大 ² ・ニューギニアVudal大 ³) ミバエラン <i>Bulbophyllum macranthum</i> の花香組成とミバエ誘引戦略	C219 ○真田幸代 ¹ ・松村正哉 ¹ ・野田博明 ² (九州農研 ¹ ・生物研 ²) ヒメトビウンカの共生細菌によるオス殺しを無効化するオスの地理的分布と中国・台湾個体群との関係	D219 ○城田安幸(弘前大学・農学生命) 無農薬りんご園の害虫管理(9)未熟果実を7月中下旬に収穫する事を5年間続ける事で「放任園」のモモシクイガの個体群密度を100分の1に減少できた	E219 ○飯田博之・北村登史雄・河野勝行・武田光能(野菜茶業研究所) タイリクヒメハナカメムシのチョウ目害虫に対する捕食実験	F219 ○衛藤友紀・稲田稔(佐賀農業セ) フタバコヤガの稲わらにおける越冬形態と生存状況
17:15	A220 ○西大海 ¹ ・飯山和弘 ² ・青木智佐 ² ・清水進 ² (九大院生資環 ¹ ・九大院農 ²) エンマコオロギから分離された <i>Metarhizium</i> sp.の系統解析と病原性比較			D220 ○土井誠 ¹ ・土田祐大 ¹ ・片井祐介 ¹ ・多々良明夫 ¹ ・増井伸一 ² (静岡県農林技術研究所 ¹ ・静岡県経済産業部 ²) ムギ間作によるシロネギ圃場でのクモ類増強効果とクモ類によるネギアザミウマ捕食	E220 ○北村登史雄・飯田博之・河野勝行・武田光能(農研機構野菜茶研) 露地ナス圃場におけるオオタバコガの土着天敵の探索	F220 ○河野勝行・飯田博之(野菜茶業研究所) タバコガ類発生予察用フェロモン剤に誘引される非標的チョウ目昆虫種

3月28日(木) 午後 一般講演

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場	
G217 ○松田朋子 ¹ ・鈴木美穂 ² ・野田博明 ³ ・石井一夫 ⁴ ・古崎利紀 ⁴ ・後藤哲雄 ¹ ・茨城大・農・応動昆 ¹ ・基礎生物学研 ² ・生物研 ³ ・農工大・農学ゲノム ⁴) トランスクリプトームに基づくハダニ科の系統解析	H217 ○遠藤信幸 ¹ ・松比良邦彦 ² ・松浦明 ³ (九州沖縄農研 ¹ ・鹿児島農総セ ² ・宮崎総農試 ³) LED光とフェロモンの併用によりカメムシ類の捕獲数は向上するか?	I217 ○上室剛・末永博 (鹿児島農総セ茶業部) チャノホソガの各発育ステージにおける各種薬剤の効果 2) 葉縁巻葉期における各種薬剤の効果	J217 ○竹田真木生・ダオ・バックコア (神戸大学農学研究科) ハチノスガ caspase1, inhibitor of apoptosis及びAgt 8の構造的特徴と時間的・空間的発現パターンから見た中腸の変態の制御機構	K217 ○横井智之・得田奈央子・船本大智・藤浪理恵子・渡辺守 (筑波大・生物) スキーゲレンデに侵入したムラサキツメクサの繁殖生態と訪花昆虫	L217 ○檜垣守男 ¹ ・中西友章 ² ・辻雅人 ³ ・伊藤慎一 ⁴ ・星博綱 ⁵ ・中牟田潔 ⁶ (果樹研・盛岡 ¹ ・徳島農総セ ² ・防除所 ² ・徳島農総セ・果樹研 ³ ・山形園試 ⁴ ・福島農総セ・果樹研 ⁵ ・千葉大院・園芸・化学生態 ⁶) ヒメボクトウの生活史-室内飼育による幼虫期間の推定-	16:30
G218 ○荻原麻理 ^{1,2} ・引場樹里 ¹ ・鈴木穂 ¹ ・Taylor DeMar ³ ・片岡宏誌 ¹ (東大 新領域 ¹ ・学振 ² ・筑波大 生命環境科学 ³) マダニはエクジステロイドを生殖組織で生合成する	H218 ○長澤淳彦 (東北大院農) アカスジカスミカメの産卵行動における口器の役割	I218 ○青山政義 ¹ ・西島裕恵 ¹ ・片山雅雄 ² (富山農総セ農研 ¹ ・高岡農林振興セ ²) キクを加害するツヤマルカスミカメ属の発生活消長と効率的防除	J218 ○徳田岳 ¹ ・坪井裕理 ² ・木原久美子 ³ ・齋藤星耕 ¹ ・守屋繁春 ^{4,5} ・菊地淳 ^{2,5,6} (琉球大・熱生研 ¹ ・理研・PSC ² ・東工大・生命理工 ³ ・理研・基幹研 ⁴ ・横市大院・生命ナノ ⁵ ・名大院・生命農 ⁶) メタボローム解析から見たオオシロアリのセルロース消化系	K218 ○横山克至 ¹ ・矢野真二 ² ・土門清 ¹ (山形農研セ ¹ ・山形置賜支庁 ²) 山形県の水田におけるヨーロッパカブトエビの除草効果	L218 ○澤村信生・奈良井祐隆 (島根農技セ) マツモトコナカイガラムシの発育パラメータについて	16:45
G219 ○天野洋 (京大院・農・生態情報) 在来性カブリダニ種の採集情報から見えるもの-天敵保全への利用-	H219 ○宮崎洋祐 ^{1,2} ・田中一裕 ³ ・渡康彦 ¹ (芦屋大・臨床教育 ¹ ・学振PD ² ・宮城学院女子大・一般教育 ³) タマネギバエの概日時計に対する温度変化の影響の解析: 温度位相反応曲線	I219 ○吉岡哲也・塚田輝貴・中園健太郎・福山昭吾・久保田朗 (福岡農総試八女分場) 散水法によるクワシロカイガラムシ防除における被覆資材の併用効果	J219 ○森山実・細川貴弘・棚橋薫彦・深津武馬 (産総研・生物プロセス) RNAiによるトコジラミ vitellogenin 遺伝子の機能解析	K219 ○米谷衣代 ¹ ・直江将司 ² ・高林純示 ³ (京大・生態研 ² ・東大・農 ² ・京大・生態研 ³) 動物散布の植物における果実の香りの多様性比較	L219 ○春山直人・松本華苗・福田充 (栃木農研セ) 栃木県の施設イチゴで採集されたヒラズハナアザミウマの休眠性変異について	17:00
G220 ○豊島真吾 ¹ ・日本典秀 ² ・岸本英成 ³ ・天野洋 ⁴ (農研機構野茶研 ¹ ・農研機構中央農研 ² ・農研機構果樹研 ³ ・京都大学大学院農学研究科 ⁴) 土着カブリダニ類の識別技術の現状と今後の展開	H220 辻本渉・三高雄希・佐久間正幸 (京大院農・昆虫生理) 匂いによる走風性で風と匂いを別々に操作する	I220 ○金崎秀司・崎山進二・宮下裕司 (愛媛県果樹研セ) 減農薬ナシ園におけるフタモンマダラメイガに対する防除時期と有効薬剤、粗皮削りの有効性	J220 ○宇賀神篤 ¹ ・國枝武和 ¹ ・小野正人 ² ・久保健雄 ¹ (東大・院理・生物科学 ¹ ・玉川大・院農・昆虫機能 ²) 初期応答遺伝子を利用したニホンミツバチとセイヨウミツバチにおける高温曝露時のキノコ体神経活動の解析	K220 ○大庭伸也 (長崎大・教育・生物) 教育に活かす“蚊学”: ボウフラの対捕食者行動		17:15